

令和5年度 教職員対象 幼稚園評価【報告書】

幼稚園運営に関するチェックリスト

R5年度
今年度
評価

1. 幼稚園教育の基本方針と組織

- ①教育理念の理解と教育課程・指導計画が作成されているか
- ②組織的な仕事が行なわれているか

A

2. 保育内容の確認（園全体）

- ①教職員間で子どもの共通理解・発達の確認が行なわれているか
- ②教職員間で諸会議が適切に行なわれているか
- ③記録の点検・確認が行なわれているか

A

A

A

3. 保育内容・実務の確認（個々の保育者）

- ①指導計画の立案・確認が行われているか
- ②子どもとの信頼関係の確保に努めているか
- ③日常保育のための環境構成を適切に行っているか
- ④子どもの様子を評価・反省し保育に生かしているか
- ⑤日常の保育が適切に記録し活用されているか

A

A

A

A

4. 研修と研究

- ①定期的な園内研修の実施や継続的な研究。園外研修の目的意識と取り組み

5. 保護者との関係

- ①子どもへの共通理解が行われているか
- ②保護者理解と個別対応が行なわれているか

A

A

6. 幼稚園機能の拡大

- ①地域の子育て支援および未就児に対応しているか

幼稚園管理に関するチェックリスト

1. 安全点検

- ①園児の受け取り、引き渡しに関する安全の確認がなされているか A
- ②施設・設備、遊具に対する安全対策ができているか A
- ③不審者への対応がなされているか A

2. 諸法規の遵守

- ①学校保健法、伝染病予防法に対応しているか A
- ②健康診断を実施しているか A

3. リスク対応

- ①任意保険の確認を行っているか
- ②大災害を想定した危機管理体制がとられているか A

4. 適正な事務処理

- 園の重要書類の管理・情報公開がなされているか A

5. 食事

- お弁当における安全衛生対策がなされているか A

1. 教育課程に関して

① 年間行事を含め、教育課程の見直しと改善を図る

A

② 教育分野によっては、三カ年カリキュラムを策定する

A

主な意見 ・ 時節に合わせた行事設定とカリキュラム作成に学年毎に取り組んだ
 ・ 鍵盤ハーモニカと水泳指導について、継続的に取り組み概ね完了した。今後も園児の
 対応を観て計画は修正してゆく。

2. 研修・研究について

教育の質向上のために、園内研修を充実させる。

個々の教材研究と日々の活動に対する自己評価をして、園児の感覚を把握する。

A

主な意見 ・ 学年毎の目的に対して、担任が工夫し計画する際に互いに意見共有して進め
 る。
 ・ 補助教職員との連携を強化して、園児にとって不安を与えない環境を保持す
 る。
 ・ はさみなどは家庭での協力を得ながら上達させてゆきたい。
 ・ 教育時間内の水泳指導と課外活動の水泳指導とを意識して、継続的に取り組

3. 教育環境について

幼児の教育環境の整備と内容・方法の改善

A

主な意見 ・ 園庭固定遊具等の怪我をしない遊び方の指導について、適時行う必要性を実感
 する。
 ・ 園児の事故・怪我防止に最善を期す
 ・ 園児へのストレス・不安感を与えない、教職員の言動は大切。
 ・ 保護者との信頼関係を損なわないための親身な対応に留意する。
 ・ 卒園児保護者からの認知を絶やさないように内部努力する。

4. 幼児の身体機能に対して

幼児の運動機能・能力を養う。

A

身体を動かすこと、できた喜びを実感する

A

チャレンジ精神の高揚

A

主な意見 ・ 広い園庭の活用範囲を広げる。毎日のあそびを充実させる。
 ・ 積極的に運動しようとする園児を増やしたい。あそびの提供が少ないように感じ
 る。
 ・ 内容改訂したチャレンジカードを活用して、より達成感を味わえるように回
 数、言葉掛けを工夫してゆく。
 ・ 個人技術の向上と、集団遊び、ゲームの楽しさを実感させたい。

5. 特別支援に対して

特別支援教育のための園内支援体制を整備・強化する

A

保護者対象 狛江こだま幼稚園の評価について【報告】

アンケート方法…幼稚園運営に関する事項と幼稚園管理に関する事項について、各設問ごとに【とても思う、思う、あまり思わない、ほとんど思わない、わからない】から選び回答を得る。

○評価ランクは最大回答とした

A: とても思う、 B: 思う、 C: あまり思わない、 D: ほとんど思わない

実施日 2024年3月

対象 卒園児保護者87名 (回収率 80.2%)

幼稚園運営に関する事項

1. 幼稚園教育の基本方針と組織		
1	教育理念や基本方針が明確である	A
2	園長はリーダーとしての責任を果たしている	A
3	教職員間で協力して、教育活動に取り組んでいる	A
4	地域交流に心がけている	A
5	安全・衛生点検に心がけている	A
6	子どもたちに適した、教育環境が整備されている	A
7	食育についての取り組みができています	A
8	環境問題へ取り組みがなされている	B
2. 保育内容の確認 (園全体)		
1	幼稚園教育要領をふまえて日々の保育を行なっている	A
2	保育内容に無理なく、バランスよく行われている	A
3	年間の活動計画に工夫がみられる	A
4	行事の配置は適正である	A
5	製作物等に工夫が見られる	A
6	教職員間で子どもたちの共通理解がなされている	A
7	安全指導や避難訓練などにより、子どもたちの安全に取り組んでいる	A
3. 教職員について		
1	子どもとの信頼関係の確保に努めている	A
2	子どもの様子を的確に把握している	A
3	子どもたちを大切にしている	A
4	日常の保育活動について、保護者に正確に伝えている	A
5	日常の保育活動に熱心に取り組んでいる	A
6	保護者からの相談や連絡事項に、丁寧にかつ適正に対応している	A
7	社会人としてのマナーを身につけている	A

4. 園児の様子		
1	子どもたちが楽しく活動に参加している	A
2	子どもたちが活躍する場面が多く、内容が充実している	A
3	子どもたちが行事を楽しみにしている	A
4	幼稚園での出来事を積極的に話している	A
5	幼稚園の集団生活による成長が感じられる	A
6	幼稚園生活でお子さんに顕著な成長が見られる	A
7	いじめ・差別・性差別などの対応が適切に行われている	A
8	幼稚園と小学校との連携に努めている	A
5. 幼稚園全般		
1	園全体に活気がある	A
2	幼稚園の教育活動に満足している	A
3	ご友人のお子さまに入園の紹介ができる	A

幼稚園管理に関する事項

1. 安全点検		
1	登降園に関する安全確認がなされている	A
2	施設・設備、遊具に対する安全対策ができています	A
3	不審者への対応がなされている	A
4	事故予防および事故発生時の対応手段が整っているか	A
2. 諸法規の遵守		
1	学校保健法、伝染病予防法に対応している	A
2	道路交通法に対応している	A
3	保護者、園児の個人情報の管理が適切になされている	A

令和5年度 狛江こだま幼稚園関係者評価 報告書

学校法人狛江こだま学園
狛江こだま幼稚園

開催日 令和6年4月24日

○対象者 学園評議員、幼稚園地域関係者、保護者代表、園長、主事

1 自己評価について

実施日：令和5年7月21日、令和5年12月20日、令和6年3月19日

*毎学期末に毎月の反省会と併せて、重点項目についての意見交換会を開催

実施日：令和6年3月26日

*幼稚園運営に関する事項、幼稚園管理に関する事項、今年度の重点項目に関する事項

2 本園の教育目標

集団生活を体験することで、社会性を身に着けるとともに個性を伸ばし、豊かな情操と健康な身体を育成する。

1. 個性を尊重し、人格形成の根幹ともいべき健全な心身の育成を目指す。
2. 基本的な生活習慣を身に着け、豊かな情操の芽生えを育み、正しい対人的、社会的な態度の素地を育成する。
3. 生活経験を通し、思考力、自主的態度、自立心などの高揚を図る。

3 評価項目

	評価項目	評価	取り組み状況
1	年間行事を含め、教育課程の見直しと改善を図る 教育分野によっては、三カ年カリキュラムを策定する	A	実施するにあたり、教育目的を明確にするとともに、園児の創造性や発展性を求めて、園児の実態に即して提起して実践できた。 体育的要素および音楽（楽器習得）について、過年度の状況を鑑み、当年度実践し見直しを持ったカリキュラム策定の準備ができた。
2	教育の質向上のために、園内研修を充実させる。 個々の教材研究と日々の活動に対する自己評価をして、園児の感覚を把握する。	A	日頃の教員間の情報交換と園内の事例検証を学年または全教職員で取り組むことで、園の基本姿勢である全教職員で全園児を見守る体制強化に繋がり、教育体制を高め広げている。 園児自らが興味関心を寄せ、取り組めるように導入時を大切にし、実践してゆく。

			<p>クラス・学年に複数教員を配置していることから、互いに教育方法について検証することで、他教員の教スタイルを見学する時間を設けることができています。</p>
3	<p>幼児の教育環境の整備と内容・方法の改善</p>	A	<p>天然芝生の維持管理を年間通して、委託業者の実施計画と併せて、自園にて時期に応じた作業を並行実施していることで、維持拡張できています。</p> <p>農作物や植物、樹木への興味関心を高める要素として、園内で植え付けから収穫まで体験できるよう計画し、実践できており、実際に食することで新鮮さを実感し、園児の食の幅広がっている。</p> <p>小動物や水中の生き物について見学やふれあい体験することで、生命あるものおよび食において、いただくことの意義について実感できています。</p> <p>小動物と魚類を体験参加することで、知識や興味が高まっている。</p>
4	<p>幼児の運動機能・能力を養う。 身体を動かすこと、できた喜びを実感する</p> <p>チャレンジ精神の高揚</p>	A	<p>芝生効果で怪我は減少しているが、園児の運動機能の未熟さから、思わぬ怪我が発生していることから、低年齢学年から、意識的に脚力や腕力、握力を養えるように、日々のあそびにて実践する。</p> <p>また、皆で意欲的に挑戦しようとする雰囲気を作り、チャレンジカード（園内作成）を活用して、練習した成果で結果に感動する喜びを味わっている。</p>
5	<p>特別支援教育のための園内支援体制を整備・強化する</p>	A	<p>必要に応じて人員配置を増員し、園児が安心して生活できるよう配慮している。</p> <p>また、公的機関の研修会等へ参加し、内容を教員間で共有し、該当園児にあわせて工夫し対応している。</p> <p>技術および知育を高めるために、個別指導を行い、個人にあった教育的配慮（教材や補助具等）を見出し、実践したことで、集中する時間や技術の高揚が顕著であった。</p>

評価 A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果が無かった

4 総合的な評価結果 A

学期ごとの学年別カリキュラム表と月毎の3学年を通した活動予定表および実施資料から、計画的な教育活動であり、全教職員が把握して実践している。また、週案ベースの書式に、日々の反省欄と達成度（自己評価）欄を設けることと、一週間ごとの技術指導項目（はさみ指導、絵の具指導など）を明記することで、次週および今後の指導方法・内容に反映できると考える。

保護者への周知については、定期的な通知物と日々の活動記録および伝言で定着している。また、園児の日常の様子をビデオ配信することで、保護者への活動認知も高くなっている。実践と成果が顕著である。

「教員目線ではなく、園児のから見た活動内容である」という、園の教育方針に合致した生活が送られている。製作や絵画など実在する作品と幼児同士の関係性を観察することで、幼児自らの育みが伺える。

幼児教育にとって、日常的に誰もが顔と顔を会わせて生活することが望まれるところであり、園児一人一人が安心して生活できる環境づくりに取り組み、親身なる対応が魅力的でありその実践成果は卒園児保護者からのコメントで判断できる。今後も維持継承してもらいたい。

時期に応じた行事は子ども達にとって、大切な経験であり、その準備や過程とともに発表する喜びは、幼児の学びとして確立している。また、春と秋の「ふれあい動物園」と「ふれあい水族館」は、遠足とともに興味深い行事である。また、一泊保育でのカレーに自分たちが植え付けしたじゃがいもを入れ、食することは一生の思い出の味となるに違いない。

教職員の日頃の熱心な活動と近隣の方々のご理解によって、子ども達のための幼稚園生活が送られている。

5 今後取り組む課題

- ① 当園の教育目標に沿って、「園児にとっての幼稚園環境」であることを念頭に、園児一人一人を把握した教育内容であること、実践することでその都度、自己および学年としての検証を行い、次に活かしてゆく。
- ② 教師一人一人の教材研究および指導方法の探求を充実させ、さらに質の向上を図る。
子ども達への教育的対応力を強化してゆく。日頃の生活の中に、あらゆる教材が潜んでいることを認識し、園児と共に日々楽しむ教材提供ができるようにしたい。また、保護者との信頼関係の構築とこれを維持する教師であり続けること。
- ③ 継続的に幼児にとっての教育環境を整備してゆく。
広大な園庭と室内プールの有効的な活用と情緒安定に欠かせない芝生の維持管理について、継続的に検討・実践し検証してゆく。登園の特徴である、園庭と室内プールをさらに活用度を増す。
- ④ 幼児一人ひとりの成長に合わせた教育指導態勢を整え、安心して生活できる教育の場を維持向上してゆく。特に配慮の必要な園児に対して、教育効果を高めるために家庭保護者の理解と教職員の適正配置と指導内容、実践活動について検証し実践してゆく。
- ⑤ 教職員の健康維持に向け、勤務体制と勤務時間の改善を協議し、より働きやすい職場となるよう互いに協力し合う。
- ⑥ 園児数の減少率を抑える経営的努力と、園児数減少による経営的側面からの適正人員と労務管理等に留意する必要がある。

- 6 卒園児保護者による学校評価の実施（平成 21 年度より実施）
令和 6 年 3 月卒園児保護者に実施（87 名）
回収率 80.2%
前年との比較表および 3 年前との比較

以上

狛江こだま幼稚園の幼稚園評価について

幼稚園は教育機関として継続的に改善してゆくことが大切であり、そのために自己評価および学校評価を実施します。評価を通して、教育の質の向上を目指し、幼児の健全な発達を支える基盤としてまいります。

○当園での自己評価および学校評価（幼稚園評価）

1. 教育目標・重点目標の確認…年度始め教職員会議
前年度教職員および保護者アンケート結果の公表と意見交換
⇒昨年度評価の確定と今年度の目標設定
2. 自己評価 ①学期末に、諸行事諸活動に関する反省と申し送りを会議形式で開催
②年度末に幼稚園運営に関する事項、幼稚園管理に関する事項と今年度の重点項目に関する事項について、アンケート形式で調査・回収・集計・教職員間公表
3. 卒園児保護者へのアンケート調査・集計
4. 幼稚園関係者評価…教育方針および教育内容の報告と教職員および保護者アンケート結果の報告とそれに伴う評価報告を行う
参加者からの意見提言をいただき、今後の課題等の提起する。

学校法人狛江こだま学園
理事長 毛塚敬進